# 見てみよう!歴史災害記録と旬のあいち

November 2019 vol.67

<mark>24 25 26</mark> 27 28 29 <u>30</u>

## か原ふれあい公園

所在地:豊田市小原町

交 通:とよたおいでんバス

「小原大草」停南西約 200m

平成30年7月の西日本豪雨災害では、広島県で大規模な土砂災害が発生し、多くの犠牲者を出しました。合計5,000箇所にものぼる土石流・土砂崩れが発生した県南部では、各地で流出した土砂により住宅が押しつぶされる被害が発生しており、住家の被害は浸水もあわせると38,000棟に及び、114名の方が命を落としています。土石流が砂防ダムを乗り越え、あるいはダムを破壊して集落に土砂が流れ込む事例も発生しており、土砂災害の恐ろしさを見せつけられました。河川の氾濫や堤防の決壊による浸水などが多く発生した岡山県の被害なども加えると、命を落とした方は200名を超え、平成最悪の水害とも言われています。

時代は少し遡りますが、昭和47年7月、愛知県内でも多数の犠牲者を出した豪雨災害がありました。この年の梅雨は例年にない長雨となり、土地も河川もたっぷりと水を含んだ状態であったところに、7月12日には東海地方に停滞した前線の活動がいよいよ激しくなって、20~30km程度の幅をもった細長い線上の降雨域が美濃三河高原一帯を覆いました。当時の記録として、「12日深夜から13日未明にかけては、雨というより水のかたまりのような降雨でありすさまじい豪雨であった。」との描写もあるほどで、西三河山間部では12日の朝9時から13日の朝9時までの降水量は284mmに達し、記録的な豪雨となりました。

のちに昭和47年7月豪雨と呼ばれるこの豪雨により、旧小原村では大規模な土砂災害などが発生し、死者32名、重傷者32名、建物の全壊は住家・非住家あわせて340棟余りに及び、村の有史に残る大災害となっています。家屋の被害は裏山の崩壊・崖崩れという、地滑りが大きな原因とされており、ピークが夜半であったことも重なって、自宅にとどまって犠牲になった方も多くありました。犠牲になった方々の慰霊のため、昭和48(1973)年には、災害犠牲者慰霊碑が建立されています。その他、道路や河川、農地・農業用施設なども大量の土砂に飲み込まれるなどし、経済被害は百数十億円(当時)に達しています。(豊田市が平成24年に発行した記録誌『あれから40年「これからも伝え継ぐために」昭和47年7月豪雨災害』には、被害状況の写真や、災害文集が掲載されています。)

災害からの復興にあたっては、国や県をはじめ、各界からの援助と協力もあり、三年余りで災害復旧事業が完成しました。昭和50(1975)年10月には、小原村の復興を記念し、災害復興記念碑が建立されています。碑には村民一丸となって復興に向けて取り組んだこと、殉難者の霊を慰

めることとともに、関係者 への感謝の気持ちが記され ています。現在では、小原 ふれあい公園の一角に、災 害犠牲者慰霊碑とともに安 置されています。



あれから 40 年「これからも伝え継ぐために」 昭和 47 年 7 日亮雨災害 より





◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していた )だくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

### ▶小原ふれあい公園の周辺には…

## ちょうにんじ超仁寺

所在地:豊田市池島町井戸神

交 通:おいでんバス「築平」停 北西 約 1.5km



「愛知県歴史全集 寺院篇」に、超仁寺は昭和20(1945)年三河地震及び集中豪雨などで被害

が甚大なため、修復に尽力したことが記されています。



#### ■ 西山神社

所在地:豊田市若草町

交 通:おいでんバス「医療センター」停 北西 約 400m

昭和 19 (1944) 年昭和 東南海地震の際に、西山神 社内の祠が倒壊しています。 また、昭和 20 年三河地震の 際にも被害がありました。



### ● **徳念寺**

所在地:豊田市駒場町北 交 通:高岡ふれあいバス「駒場東口」停 北西 約 300m

徳念寺は名古屋市北区杉村小学校の児童が三河方面に集団疎開した際の分宿の1つでしたが、昭和20年三河地震によって建物が倒れ、2人の子供が亡くなっています。



#### ★ 小原四季桜まつり

四季桜は、夏の間に充実した花芽が秋から冬にかけて咲き、11月頃に見頃を迎える桜で、小原の四季桜は、藤本玄碩という医師が文政年間の始めに名古屋方面から苗を移し植えたのがきっかけとなって広まったと言われています。昭和53年に地区の木に選定され、現在では1万本を数えるほどになっています。

毎年 11 月には、小原四季桜まつりが開催されます。メイン会場の 小原ふれあい公園では、特産物の販売やステージショーなどの催しが



Aichi Now HP より

開催されるほか、和紙のふるさとでは小原和紙の工芸作家めぐりや菓子まきなどが、川見四季桜の里などでは、地域住民による露店が開催されます。四季桜を巡るコースも用意されており、小原地区一帯が多くの観光客でにぎわいます。

#### あいちの農産物

さといもは、インド東部からインドシナ半島の熱帯地域から日本に伝わったと言われ



ており、縄文時代から続く伝 愛知県園芸農産課 HP より 統野菜です。縄文時代の中頃に人々の住む里で 栽培されるようになり、山で採る山芋と区別して里芋の名称がつきました。

身のぬめりは水に溶けるとゲル状に変化する 水溶性食物繊維です。さといものでんぷん粒子 はじゃがいもやさつまいもの粒子より細かく、 熱を加えるとなめらかな食感になります。

県内の主な産地は豊川市、新城市、碧南市です。

#### **-**●ブレイクタイム●-

#### ♪小原和紙

小原和紙は、和紙原料のコウゾを染色し、それを絵の具代わりとして絵模様を漉き込んでゆく美術工芸品です。江戸時代から始まり、明治になって洋紙が普及すると一時衰退しますが、昭和 20年に碧南の工芸家・藤井達吉が小原に疎開し指導を開始したことにより、復興を成し遂げます。



豊田和紙のふるさと HPより

豊田市和紙のふるさとには、小原和紙工芸作品や藤井達吉の美術工芸作品、全国の和紙資料を展示する「和紙展示館」、紙漉き体験実習のできる「和紙工芸館」などが設置され、小原和紙について学ぶことができます。

- ◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。
- ◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html) をぜひご覧ください。

